

河川環境 教育

ポータルサイト

川での自然体験活動の魅力や、
学びのコンテンツなどを紹介するポータルサイトです。

河川環境教育ポータルサイト

小学校授業での 活用パターン例

体験活動等によって芽生えた一人一人の探究意欲をのばすと思われる個別最適な学習ツールや素材・データ等の事例を収集・整理し、それらを活用した学習展開方法のパターン例を作成しました。また総合的な学習の時間だけでなく各教科等においてこれらのパターン例を実施する際に、学習内容を深めるための工夫点や教員や外部講師の具体的な学習支援方法等を記載し資料としてまとめました。



河川環境教育
ポータルサイト

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
(代表電話) 03-5253-8111

MLIT
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

はじめに

身近にあり、日常生活と深く関連する河川は、歴史・文化・情操という多面的な視点からの学習テーマや素材を提供しやすい学習材です。

こうした河川について学ぶ環境教育は、教科等横断的な学習を行いやすく、学習指導要領解説総則編で示されている「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」として具体的カリキュラム・マネジメントの参考として例示されている「環境に関する教育」及び「郷土や地域に関する教育」を包含するものと考えられます。

しかしながら、河川環境教育にはじめて取り組もうとした場合、児童生徒の発達段階や各教科等に応じた学習の展開方法についてのイメージがつかみにくいという課題があるとともに、そうした展開方法についてのモデルパターンの事例情報や、それらの学びを円滑にする児童・生徒向け学習ツールや教員向け支援ツールの存在及びその活用方法について情報を収集する時間を十分に確保しづらいという課題があります。

河川環境教育は、総合的な学習の時間だけでなく、理科や社会科といった河川環境教育に関連性の高い教科をはじめとして、国語（学んだことの言語的表現）や図画工作（造形的な表現）、体育（呼吸の確保）などにも関係することから、各教科等でのモデル展開例等の具体内容を資料等で紹介することで教科等横断的に実施する方法のイメージがつかみやすくなると考えます。

このように授業実践の視点に立ち、「総合的な学習の時間」と各教科等との関連付けや、各教科等での実践方法例、地域の外部支援組織等との連携事例、学習ツール・支援ツールの紹介等の情報発信を行い、既存のカリキュラムの単元内容等に沿った形での教科等横断型の効果的な河川環境教育が可能となる工夫を提案します。

河川環境教育は、各教科での学びを関連付けて展開する「カリキュラム・マネジメント」との関連性が高く、また、学校教育で重視される「課題の発見・解決に向けた探究・成果の表現」といった過程を通して展開されることで、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の実現に資するものと考えられます。

GIGAスクール構想により一人一台のタブレット端末が配備され、これまで以上に教員や児童生徒がWEB情報にアクセスしやすくなったこととあわせ、一人一人の興味関心にあわせて情報を入手しやすくなっていることを踏まえ、ICTを活用した河川環境教育実施の具体内容を整理して紹介します。

学習活動例

地域の川の基本情報を調べよう！

自宅や学校周辺など、身近な地域にはどんな川が流れているか、その川はどこから来ていてどこへ行くのか、基本情報を学びます。それらの情報を起点として、生き物やインフラ、歴史・特産物、文化など様々なテーマの学習へとつなげることで、より多面的で具体的に情報を収集・整理することができます。

関連する主な単元

小学校3年社会科「身近な地域や自分たちの市区町村」、小学校4年社会科「県の様子」、小学校5年社会「我が国の国土の様子と国民生活」、総合的な学習の時間

学習の流れ

地域を流れる川の名前や位置を調べる

- ①「地理院地図」や②「学習用流域デジタルマップ」などのデジタル地図で、地域を流れる川の名前や位置を調べる。そして、その川を上流側へと辿り、源流の位置を確認するとともに、下流方面にも辿りながら、海へと流れ出る地点（河口）の位置を確認する。

それらの川の概要情報から探究テーマを決める

- ③「日本の川」や都道府県のウェブサイトで、地域を流れる川がどこに位置しているのか、その川にはどのような歴史や文化などがもたらされてきたのかの概略について調べる。その中でも興味をもった事項を「探究テーマ」として選ぶ。

探究したいテーマにあった情報を集める

- ④「河川環境教育ポータルサイト」に掲載されている「川の概要」カテゴリに掲載されているコンテンツや、河川管理者※¹の運営サイト、各種検索サイト、川に関する資料館などで情報を収集する。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土地理院「地理院地図」

国土地理院が提供する地図閲覧サービス。航空写真、標高図、災害関連地図など、様々な地図の種類を選択できる。



②河川財団「学習用流域デジタルマップ」

身近な地域から国土全体の様子を流域の視点からとらえるためのマップ。様々な情報を流域と重ねることが可能。



③国土交通省「日本の川」

全国の一級河川を地図から選択することができる。歴史や主な災害、自然環境等の概要を確認することができる。



④国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」

コンテンツ検索ページでは、「生き物」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる。



⑤国土交通省「河川に関する用語」

河川構造物を表す用語の読みや役割を確認できる。

※1 河川は公共に利用されるものであって、その管理は、洪水や高潮などによる災害の発生を防止し、公共の安全を保持するよう適切に行われなければならない。この管理について権限を持ち、その義務を負うものが河川管理者である。具体的には、一級河川については国土交通大臣、二級河川については都道府県知事、準用河川については市町村長と河川法に定められている。したがって、地域の川について調べたいとき、インターネットで「河川名」「河川管理者」とキーワードを入れて、河川管理者を特定し、その河川管理者が運営するサイトや問い合わせ先を確認しておくことで、情報収集しやすくなる。川にかかわる用語については、⑤国土交通省「河川に関する用語」で確認できる。

通学途中に川があれば、その川の流れる方向を目視で確認するとともに、地図等で土地の高低差に目を向けてみる。河川に沿った土地は、周囲の土地よりも低くなっており、河川から離れるにしたがって土地はだんだん高くなっていく。また、河川に沿った地形は、上流、中流、下流へと繋がり変化していく。河川の繋がりをもとに都道府県範囲で地域を俯瞰してみることににより、地域の土地の様子の特徴を捉えることが可能となる。



学習活動例

川のいきものを調べよう！

川とその周辺には、魚や水生生物、陸上昆虫、野鳥など様々な動植物があります。それらのうち、例えば川の中にいる水生生物を対象とすることで、水中には小さな生きものがあることを学ぶとともに、これらの生きものが水辺の環境と大きくかかわっていることを学ぶことで、環境への興味や意識を高めます。

関連する主な単元

小学校3年理科「身の回りの生物」、小学校6年理科「生物と環境」、総合的な学習の時間

学習の流れ

川にすむいきものを調べる

- ①「河川環境教育ポータルサイト」や②「河川環境データベース」で身近な地域の水辺にすむ生きものの種類・特徴を確認する。
- 川の生きものやそれらが生息する環境への関心を高めるために室内型体験ツール③「ARでみつけよう！川のいきものひみつ」を用いた導入も展開できる。

水生生物調査を行う

- 実施内容にあわせた活動場所を決め、④「河川水難事故防止ポータルサイト」内に掲載されているコンテンツ等を参考に、安全管理マニュアル等を作成する。活動に必要な道具や装備（ライフジャケットなど）を準備する。
- ④「全国水生生物調査」における「水生生物調査とは」「調査に行く前に」などのページで水生生物調査※1の実施内容や方法を確認する。
- ⑤「河川生物の絵解き検索」で採集した水生生物の種類を調べる。

データベースに登録する

- ⑤「全国水生生物調査」では、過去の全国水生生物調査結果等の閲覧が可能である。同じ地点における過去の水生生物調査結果と比較することで経年変化を確認する。
- ⑤「全国水生生物調査」に参加する。申し込み後、調査した地点の位置情報や確認した水生生物の種類を登録する。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」

コンテンツ検索ページでは、「水質」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる。



②国土交通省「河川環境データベース」
国土交通省が実施した生物調査結果、河川空間利用実態調査などの情報を調べることができる。



③国土交通省「小学校1・2年生生活科AR+身近な自然の観察【教員向け手引き】」

川に住む生き物の姿を実在する風景に重ね合わせて、水辺での生きもの調査を疑似体験することができる。



④国土交通省「河川水難事故防止ポータルサイト」
水辺の楽しみ方や安全対策について確認することができる。



⑤環境省「全国水生生物調査」
川にすむ水生生物を観察し、水質とその環境に適した生きものとの関係を知る。調査結果の登録もできる。



⑥環境省「河川生物の絵解き検索」
水生生物の特徴を絵と簡単な説明で示し、現場での分類や水質評価に活用できる図鑑形式の検索ツール。

※1 水生生物調査とは、川にすむ生きものを採集し、その種類を調べることで、水質（水のごよれの程度）を判定する調査である。この調査では、水の汚れに対する感受性が異なる複数の生き物が指標生物として選ばれている。例えば、比較的きれいな水に生息するサワガニやトビケラの幼虫、汚濁に強いユスリカなど、採集された生き物の種類と数から、川の水質が4つのレベル（きれいな水→ややきれいな水→きたない水→とてもきたない水）のどの段階に当たるかを判定する。

河川や湖沼には、さまざまな生きものが水質や水温、水流などの水環境に適応して生態系が形づくられている。したがって、水域に生息する生きもの種類や数は、その水環境の状態を反映している。国土交通省と環境省では「全国水生生物調査」を実施しており、参加することで自分たちの調査結果が全国調査に貢献する意義を体感できる。

02 水辺の環境

関連する教科等

- 国語
- 生活
- 社会
- 理科
- 道徳
- 総合
- （音楽・図工・家庭科等）
- その他

学習活動例

川の水質を調べよう！

川やその周辺をはじめとした水環境は、人間を含めた生命をはぐくむうえで大きな役割を果たしています。水の状態が健全に保たれることは、多くの生物の健康にとって不可欠です。「きれいな水」について考え、水をきれいにする手法を学ぶことで、水辺の環境への興味や意識を高めます。

関連する主な単元

- 小学校4年社会科「人々の健康や生活環境を支える事業」、
- 小学校6年理科「生物と環境」、小学校6年理科「水溶液の性質」、総合的な学習の時間

学習の流れ

川の水質を調べる

- 国土交通省が管理する一級河川の水質は、①「**河川環境教育ポータルサイト**」や②「**水文水質データベース**」にアクセスし、データを確認する。
- 都道府県等が管理する河川の水質は、インターネットで「水質」「河川名」「都道府県名」「市区町村名」などのキーワードで検索したり、都道府県や市町村に問い合わせたりして確認する。

水質調査を行う

- 実施内容にあわせた活動場所を決め、③「**河川水難事故防止ポータルサイト**」内に掲載されているコンテンツ等を参考に、安全管理マニュアル等を作成する。活動に必要な道具や装備（ライフジャケットなど）を準備する。
- ④「**身近な水環境の全国一斉調査**」における調査内容ページやマニュアルページで、水質調査の実施方法や調査項目※1を確認する。

水質調査の結果をまとめる

- 河川ごとに環境基準※2が定められている。調査した地点の水質結果が基準を満たしているかどうか確認する。同じ地点における過去の水質調査結果等と比較することで経年変化を確認する。
- ④「**身近な水環境の全国一斉調査**」の一斉調査に参加する。申し込み後、調査した地点の結果を登録する。調査に参加した感想や撮影した川の写真を同サイトから投稿することができるので、調査結果やその感想等をまとめた子どもの成果物を提出することもできる。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」
コンテンツ検索ページでは、「水質」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる。



②国土交通省「水文水質データベース」
国土交通省の観測所における観測データが公開されている。水質などの情報を調べることができる。



③国土交通省「河川水難事故防止ポータルサイト」
水辺の楽しみ方や安全対策について確認することができる。



④全国水環境マップ実行委員会「身近な水環境の全国一斉調査」
「全国水環境マップ実行委員会」のもと、河川の水質に関心のある市民団体や学校などが参加する水環境調査。調査方法や過去の調査結果を確認したり、調査に参加登録することができる。

※1 水質にはさまざまな項目がある。例えば、国土交通省が実施している「身近な水環境の全国一斉調査」では、水温、COD（化学的酸素要求量）、透明度、pH（水素イオン濃度）、電気伝導度がある。また、水環境に生息するいきものを調べることで、水のきれいさを調査する方法もある。国土交通省と環境省では、川のいきものを指標として川の水質を総合的に評価するために「全国水生生物調査」を実施している。

※2 環境基本法により、水質汚濁に関して生活環境の保全に関する環境基準である「生活環境項目」が設定されている。河川、湖沼、海域の各公共水域について利用目的に応じて基準値が定められており、各水域の類型（AA、A～Eの6類型）の設定は都道府県知事が行うことになっている。水質調査の結果と基準値とを比較し、基準値を「達成（満足）」しているか確認する視点をもつとよい。

国土交通省や都道府県が公表しているBODやCODについてのデータを確認すると、「75%値」という表記がされている。これは、年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べたときの0.75×n番目（nは日間平均値のデータ数）のデータ値を意味する。例えば、月1回の測定の場合、日平均値を水質の良いものから12個並べたとき、水質の良い方から9番目が75%値となる。この値が基準値に適合することをもって、調査地点において環境基準を達成していることを満たすこととされている。

- 国語
- 生活
- 社会
- 理科
- 道徳
- 総合
- その他
(音楽・
図工・家
庭科等)

学習活動例

利水のためのインフラを調べよう！

私たちは、生活用水や工業用水、農業用水、発電など、さまざまな目的で川の水を利用しています。そのため、水辺には川の水を利用するためのインフラがあります。こうした私たちの生活を支えているインフラを調べることで、人々の生活や社会、経済活動を支える水の役割や、それを支える人々の仕事に対する理解や関心を高めます。

関連する主な単元

小学校4年社会科「人々の健康や生活環境を支える人々（飲料水）（下水処理）」、
小学校5年社会科「我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり」、総合的な学習の時間

学習の流れ

川の水と生活とのかかわりについて考える

- ① 「[動画]「水」のおはなし」を視聴し、水循環の基本的な事柄、日本の気候や河川や流域の特徴、日常生活における水とのかかわり、水循環の課題を確認する。
- ② 「ワークシート」を使い、水循環についての理解を深める。

利水のためのインフラについて調べる

- ③ 「河川環境教育ポータルサイト」や④ 「インフラツーリズム」で川の水を利用するためのインフラ※1を確認する。
- 河川構造物をふくむ川にかかわる用語については、⑤ 「河川に関する用語」で調べることができる。

現地調査やインタビューを実施する

- ④ 「インフラツーリズム」や⑥ 「全国の見学施設」で利水にかかわる見学施設を確認する。
- 現地調査を行ったり、有識者へのインタビューを実施したりし、人々の生活や社会、経済活動を支える水の役割や、それを支える人々の仕事に対する理解を深める。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「[動画]「水」のおはなし」

私たちが使う水は、自然の環境システムや多数の人の営み（供給や処理の仕組み等）を経て成り立っていることを確認できる。



②国土交通省「水循環教材の活用事例集」および「ワークシート」

水循環教材「水のおはなし」の概要についてや、動画と一緒に活用できるワークシートが掲載されている。



③国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」

コンテンツ検索ページでは、「河川のインフラ」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる。



④国土交通省「インフラツーリズムポータルサイト」

全国のインフラ施設について、「都道府県」や「テーマ」で絞り込み検索ができる。



⑤国土交通省「河川に関する用語」

河川構造物を表す用語の読みや役割を確認できる。



⑥国土交通省「全国の見学施設」

全国のインフラ施設について、「都道府県」や「テーマ」で絞り込み検索ができる。

※1 生活用水や農業用水にかかわるインフラには、ダムや取水設備（堰）、浄水場、導水路、水道管網、農業用水路、ため池などがある。排水処理には、下水道や下水処理場（地域によっては浄化槽）などがあり、公衆衛生の確保と水質保全の両面で重要な役割を担っている。制度面では河川管理や上水道政策、農業用水、エネルギー政策など、国や自治体、事業者が分担して関与している。特に水道・下水道の整備や運営の主体多くの場合、市町村（下水は流域下水として都道府県が担う場合もある）である。水道行政は近年国土交通省に移管され、上下水道を一体的に扱う方向となっている。

インフラの目的だけを調べるのではなく、維持管理に携わる人々の工夫、流域としてのつながり、気候変動による水災害の激甚化・頻発化によるインフラへの影響、インフラ整備による周辺環境への影響、老朽化に伴う改修費用や合意形成、水資源の再利用などの視点を取り入れることで、地域課題を自分事として捉え、環境保全への意識を高める契機とできる。



学習活動例

水災害から暮らしを守るためのインフラを調べよう！

河川には、水災害から暮らしを守るための堤防やダム、遊水地など、治水を目的としたインフラもあります。こうした河川のインフラを調べることで、水災害から暮らしを守るためのインフラの役割や、それを支える人々の仕事に対する理解や関心を高めます。

関連する主な単元

- 小学校4年社会科「自然災害から人々を守る活動」、
- 小学校5年社会科「我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり」、
- 小学校5年理科「流れる水の働きと土地の変化」

学習の流れ

治水とは何か確認する

- ①「小学校5年理科流れる水の働きと土地の変化」を視聴し、流れる水の働き、流れる水による土地の働き、水害から暮らしを守るための治水対策を確認する。

治水のためのインフラについて調べる

- 水害から暮らしを守るためのインフラ※1について、②「河川環境教育ポータルサイト」や③「インフラツーリズムポータルサイト」にアクセスして確認する。
- 河川管理者が作成している「河川整備計画」には、川で行うべき水災害への対策が位置付けられている。一級河川の「河川整備計画」は、④「日本の川」にあるリンクで確認する。都道府県等が管理する河川は、インターネットで「河川整備計画」「河川名」などのキーワードで検索したり、都道府県や市町村に問い合わせたりして確認する。

現地調査やインタビューを実施する

- ③「インフラツーリズム」⑤「全国の見学施設」で治水にかかわる見学施設を確認する。
- 現地調査を行ったり、有識者へのインタビューを実施したりして、地域の水災害の危険性や、水災害から暮らしを守るためのインフラを支える人々の仕事に対する理解を深める。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「小学校5年理科流れる水の働きと土地の変化」
川の働きと土地の働きを確認できる。



②国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」
コンテンツ検索ページでは、「河川のインフラ」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる。



③国土交通省「インフラツーリズムポータルサイト」
全国のインフラ施設について、「都道府県」や「テーマ」で絞り込み検索ができる。



④国土交通省「日本の川」
全国の一級河川を地図から選択することができ、歴史や主な災害、自然環境等の概要を確認することが可能。



⑤国土交通省「全国の見学施設」
全国のインフラ施設について、「都道府県」や「テーマ」で絞り込み検索ができる。

※1 治水のためのインフラには、洪水調節のためのダムや遊水地、洪水を安全に流下させるための放水路や堤防のほか、水門、排水機場などがある。近年、激甚化・頻発化する水災害に対して、国土交通省を中心に、川だけでなく流域の多様な関係者（自治体、企業、住民等）が連携して対策を進める「流域治水」が推進されている。インターネットで「流域治水プロジェクト」「河川名」をキーワードに入れて検索すると地域の取組の詳細を調べることができる。

インフラの目的だけを調べるのではなく、地域で過去に発生した水災害を調べ、どの規模の洪水を想定して整備されているのか、想定を超える場合にどのような被害が起こりうるのかもふくめて考える。流域という視点を持ち、地形や土地利用、洪水・土砂災害ハザードマップなどの情報と重ね合わせることで、インフラと避難・土地利用対策を組み合わせた防災の考え方を理解し、防災への意識を高める契機とすることもできる。

04 河川のごみ

関連する教科等



学習活動例

地域の川に捨てられたごみを調べよう！

川やその周辺には、不法投棄された一般ごみや粗大ごみに加え、水の高いところから低いところへと流れて集まる性質によって集められたごみが見られます。これらのごみを調べ、それらの発生原因を探ることで、人間や社会活動が環境に与える影響を理解し、流域に暮らす一人ひとりの意識向上が不可欠であることを学ぶことができます。こうした学習は、環境への関心や意識を高めることにもつながります。

関連する主な単元

小学校4年社会科「人々の生活を支える事業」、小学校6年理科「生物と環境」、総合的な学習の時間

学習の流れ

川に捨てられたごみの状況を調べる

- ①「河川環境教育ポータルサイト」または②「全国の河川ゴミマップ」で地域の川に捨てられているごみの状況を確認する。
- 地域の川に捨てられたごみの種類や量、分布などの情報をもとに、ごみが発生する原因や、人間や社会の活動により出るごみが環境に与える影響について考える。

川のごみを減らすための取り組みについて調べる

- 地域の河川管理者が運営するウェブサイトや③「全国川ごみネットワーク」にアクセスし、川のごみを減らすためにどのような人が、どのような取組※1を行っているか確認する。

川の環境を保全するためにできることを考える

- 河川管理者のウェブサイトで、川の環境保全活動に関する情報を公開している場合がある。①「河川環境教育ポータルサイト」で河川管理者の問い合わせ先を確認し、こうした活動への参加を検討する。
- 実践したごみ調査の実施結果は、③「全国川ごみネットワーク」水辺のごみ見つけ！全国水辺のごみ調査ページにて登録することができる。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」

コンテンツ検索ページでは、「ごみ」「問い合わせ先」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる。



②国土交通省「全国の河川ゴミマップ」

全国の一級河川における、不法投棄の状況やゴミの散乱状況をまとめた「ゴミマップ」を閲覧できる。



③全国川ごみネットワーク

川のごみを減らすための取組を調べたり、全国水辺のごみ調査に参加したりできる。

※1 国や県などの自治体が主体となって河川清掃や美化啓蒙活動を行っているほか、河川協力団体（地域住民）による川の保全活動も進められている。

地域の川のごみを種類ごとに分けて調べたり、分布をまとめた「ゴミマップ」を作成したりする。この活動を流域という視点と関連付けることで、「どこに・どんなごみが・なぜ発生しているのか」という原因を考えることができる。流域では、上流域から下流域にかけてごみが水の働きにより集められることに気づかせることが重要である。原因が明確になれば、「その原因を取り除いたり、弱めること」で解決につながる。川のごみを減らすための活動を考える中で、「川にポイ捨てをしない」「川のごみ拾いをする」といった取組は重要ではある。しかし、より効果的で持続的な解決のためには、流域の一人一人が、日常生活でできる取組を考えることが重要である。流域という視点を持たせることで、環境への関心や意識を一層高める契機となる。



学習活動例

川の利用を調べよう！

子どもたちにとって、川は魅力的な遊び場です。川でどのような活動ができるのかを自主的に調べることで、遊び場としての川の価値を再確認し、川の環境を守る意識につなげます。

関連する主な単元

小学校1・2年生活科「自然や物を使った遊び」、小学校3年理科「身の回りの生物」、小学校4年理科「季節と生物」、小学校6年理科「生物と環境」、総合的な学習の時間

学習の流れ

川の利用を調べる

- ①「ミズベアソビガイド」で、水辺の楽しみ方について確認する。

川を利用する

- 活動場所として②「子どもの水辺」や③「水辺の楽校」として登録されている地点を確認する。
- ①「ミズベアソビガイド」を参考に、安全管理マニュアル等を作成する。活動に必要な道具や装備（ライフジャケットなど）を準備する。
- 川へ出かける前に、④水難事故防止アニメーション動画を視聴し、水辺での安全対策のイメージを確認する。

将来も川を利用していくためにできることを考える

- ⑤「かわまちづくり」※2でどのような人が、どのような思いで取組を実施しているのか確認する。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「ミズベアソビガイド」

水辺の楽しみ方や安全対策などについて確認することができる。



②国土交通省「子どもの水辺再発見プロジェクト」

子どもの遊びや体験活動の場として適した水辺として登録されている場所を確認できる。



③国土交通省「水辺の楽校プロジェクト」

地域の身近な水辺における環境学習や自然体験活動を推進するため、国土交通省、文部科学省、環境省の3省が連携して整備している親水空間を確認できる。



④国土交通省「水難事故防止アニメーション動画」

動画で水辺の安全利用について確認できる。



⑤国土交通省「かわまちづくり」

河川空間と町空間を融合した、良好な空間形成を目指す取組を確認できる。

※1 「かわまちづくり」とは、国土交通省が2009年度（平成21年度）に創設した支援制度で、河川空間とまち空間を融合させ、賑わいあるまちづくりによる地域活性化に資する良好な空間形成を目指す取組をいう。サイト内の「全国かわまちづくりMAP」には、かわまちづくりが実施されている場所情報だけでなく、行政や市民団体等の川まちへの思いや今後の展望などを確認できる。これらの事例は、将来も人々が利用し続けたい河川環境を維持するために自分たちにできることを考える活動に役立つ。

水辺での活動についてはライフジャケットを着用するなどして、「河川水難事故防止ポータルサイト」内に掲載されている各種コンテンツ等にて安全確保方法の詳細を把握しておく。事前に漁業協同組合や河川管理者などの関係機関に連絡を入れ、活動予定内容を伝え了解を得ておく。あわせて安全管理のできる外部指導者等に協力を依頼する。

06 河川に関する学習の場

関連する教科等



学習活動例

川の学習の場を調べよう！

川や水辺を活用した学習や体験活動を行う際には、それぞれの河川の管理を担当する河川管理者を把握しておくことで、必要な情報を収集しやすくなります。

関連する主な単元

総合的な学習の時間

学習の流れ

地域の川の学習の場を調べる

- ①「河川環境教育ポータルサイト」や②「全国の見学施設」で地域の川の学習の場を確認する。

学習施設を利用する

- ・学習施設で気になるテーマについて調査を行う。
- ・現地に行くことが難しい場合には、③「キッズページリンク集」で地域の川に関する情報をウェブサイト上で収集する。
- ・地域の川の河川管理者が運営するウェブサイトで、川の概要や、学習に関連するページを確認する。

学習したことを整理する

- ・学習施設や、施設の有識者から得られた情報を整理しまとめる。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」

コンテンツ検索ページでは、「問い合わせ先」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる。



②国土交通省「全国の見学施設」

全国のインフラ施設について、「都道府県」や「テーマ」で絞り込み検索ができる。



③国土交通省「キッズコーナー」

国土交通省の仕事についてわかりやすく紹介するウェブサイト。



④荒川下流河川事務所「バーチャル amoa」

荒川下流河川事務所の資料展示をオンラインで閲覧できるウェブサイト。

河川は公共に利用されるものであって、その管理は、洪水や高潮などによる災害の発生を防止し、公共の安全を保持するよう適切に行われなければならない。この管理について権限を持ち、その義務を負うものが河川管理者である。具体的には、一級河川については国土交通大臣、二級河川については都道府県知事、準用河川については市町村長と河川法に定められている。したがって、地域の川について調べたいとき、インターネットで「河川名」「河川管理者」とキーワードを入れて、河川管理者を特定し、その河川管理者が運営するウェブサイトや問い合わせ先を確認しておくことで、情報収集しやすくなる。例えば、④荒川下流河川事務所ウェブサイトでは、資料館の展示をオンラインで閲覧できる。現地に行くことが難しい場合には、河川管理者が提供している情報が役に立つ。



学習活動例

地域の川にまつわる先人を調べよう！

川は地域の生活と深く結びついており、歴史の中で人々はその恵みに感謝し、敬い、時には恐れてきました。その象徴とするお祭りやイベントが日本中に存在します。地域で行われている川に関する行事を調べ、その由来や来歴を知ることによって、人々の生活に川がどのような役割を果たしてきたかを確認します。また、治水や利水に尽力した先人を取り上げることで、地域の発展に貢献した人々の働きに触れることができます。こうした学びを通して、地域の人々の様々な思いや願いにより現在の生活が成り立っていることを知ることにつながります。

関連する主な単元 小学校3年社会科「身近な地域や市の様子」、「市の移り変わり」
小学校4年社会科「都道府県の様子」、「県の伝統や文化、先人の働き」、「県内の特色ある地域の様子」

学習の流れ

川にまつわる先人を調べる

- ・国土交通省が管理する一級河川の歴史については、①「日本の川」で確認する。
- ・川に関わる先人については、②「河川技術の基礎をつくった人々」や③「先人のほたらきポータルサイト」で確認する。または、インターネットで「都道府県名」「市町村名」「先人」「河川名」などをキーワードに入れて検索する。
- ・先人の働きにかかわる詳細情報は、図書館などで市町村の郷土史で確認する。

先人とつながりのある史跡や施設などを調べる

- ・地域の先人についての史跡や施設※1を調べる。資料館を訪ねることで、展示物や説明資料を通じて理解を深める。

先人の功績を調べる

- ・先人の働きの前後の地域の様子については、④「地理院地図」年代別航空写真で確認する。昔と今の様子をくらべることで、川周辺の土地利用が変わってきたことや、川の流路が変わったことなど、さまざまな地域の様子の変化に気づくことができる。
- ・先人の働きにより、生産が盛んになった農作物や工業製品が生まれ、地域の発展に寄与した例も多い。こうした先人の功績が、その後の地域にどのような形で受け継がれたのかを、特産品や地域発展などに注目しながら調べる。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「日本の川」
全国の一級河川を地図から選択することができ、歴史や主な災害、自然環境等の概要を確認できる。



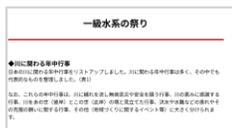
②国土交通省「河川技術の基礎をつくった人々」
河川技術の基礎をつくった人物、その人物が活躍した時代、主な活動場所を確認できる。



③河川財団「先人の働きポータルサイト」
小学校4年社会科「先人の働き」を対象に作成されたもの。



④国土地理院「地理院地図」
国土地理院が提供する地図閲覧サービス。年代別の航空写真を確認できる。



⑤国土交通省「一級水系の祭り」
一級水系に関わる祭りや年中行事について確認できる。



⑥国土交通省「川の近代土木遺産」
主な人物と活躍した主な場所について確認できる。



※1 地域には、水と深いかわりをもつ史跡（水を祭る神社、水神、古くに築かれた堤の跡、用水、堰、ため池など）が数多く残されている。なかでも、歴史に名を残す先人ゆかりの史跡は現在も保存されている場合があり、当時の場所に石碑として記録が残されていることがある。

河川に関する行事は、史実や伝説が基になっていることも多い。また、過去にあった水害などの被害を繰り返さないため、犠牲者の慰霊や鎮魂、さらには防災への願いが込められている場合もある。一級水系に関わる祭りや年中行事については⑤「一級水系の祭り」で、川の近代土木遺産については⑥「川の近代土木遺産」で調べるとよい。

08 川を題材とした芸術・文化

関連する教科等



学習活動例

歌にあるふるさとの川を調べよう！

川は昔から、人々の生活や文化と深く関わってきました。絵画や彫刻、和歌や俳句、そして歌など、さまざまな芸術作品の題材としても親しまれています。

例えば、小学校の音楽科で扱う代表的な唱歌「春の小川」は、東京都渋谷区を流れる河骨川がモデルとされています。こうしたふるさとの歌に登場する川の情景や歴史と、現在の地域の様子をあわせて学ぶことで、郷土への理解や愛着を育むことができます。

関連する主な単元

小学校音楽科 鑑賞・表現

学習の流れ

地域の川が登場する歌を調べる

- ① 「河川環境教育ポータルサイト」にアクセスし、「川を題材とした芸術・文化」で調べる。
- ② 日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい歌として、都道府県歌や市町村歌、校歌がある。これらの歌には、地域にゆかりのある川が登場することが多い。このような歌を対象に、登場する川を確認する。

地域の川の移り変わりや良さを調べる

- ③ 「地理院地図」で歌が作られた当時の川や、川の周辺の土地利用の様子を確認する。
- ④ 「日本の川」における「地域と川」のページで、地域の川の特徴や、地域に受け継がれてきた川に関する文化を確認する。

地域の川の雰囲気や表情、味わいを感じ取り音楽表現する

- ⑤ 川に注目して捉えた地域の移り変わりの様子や、地域の川のよさを思い浮かべながら、鑑賞活動を行う。
- ⑥ 川で採集した水や石、流木などを用いて音をつくり、歌と合わせて演奏するなど表したい音楽表現をする。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」

コンテンツ検索ページでは、「川を題材とした芸術・文化」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる。



②国土院「地理院地図」

国土院が提供する地図閲覧サービス。航空写真、標高図、災害関連地図など、様々な地図の種類を選択できる。



④国土交通省「日本の川」

全国の一級河川を地図から選択することができる歴史や主な災害、自然環境等の概要を確認することができる。



③国土交通省「一級水系の和歌・俳句」

全国の一級河川にまつわる和歌や俳句、歌枕、川にかかわる主な「歌ことば」を確認することができる。

川の情景や歴史を詠った和歌や俳句は多くある。④「一級水系の和歌・俳句」では、全国の109の一級水系にまつわる和歌や俳句を調べることができる。同サイトにまとめられた「歌ことば」を用いて、地域の川を題材に短歌や俳句を作る言語活動につなげることも可能である。地域の移り変わりや芸術表現を関連付けることで、川と人とのかわりについて深く理解する学びとなる。

08 川を題材とした芸術・文化

関連する教科等



学習活動例

川を題材に造形を楽しもう！

川は昔から、人々の生活や文化と深く関わってきました。絵画や彫刻、和歌や俳句、そして歌など、さまざまな芸術作品の題材としても親しまれています。例えば、有名な歌川広重の浮世絵には、江戸時代の川の様子や水辺で生活する人々の日常が多く描かれています。鉄道がない時代、川は物流の中心であり、川岸には町が広がり栄えていました。そのため、川を描いた作品が数多く残されています。現代では、川の流れは癒しを与え、水辺は人々との憩いの場ともなっています。そうした場所を描いたり、写真に撮ったりしたものは多い。これらの芸術を鑑賞し、川や水の良さに気づくことで、造形活動への意欲が高まります。

関連する主な単元 小学校図画工作科

学習の流れ

地域の川が出てくる芸術品を調べる

- ①「河川環境教育ポータルサイト」や②「日本の川」で、地域を流れる川やその周辺の芸術や文化などを確認する。
- ・芸術作品の検索サイトなどで「河川名」「都道府県名」「市町村名」などのキーワードを入れて検索する。

地域の川の移り変わりや良さを調べる

- ③「地理院地図」で芸術作品がつくられた当時の川や、川の周辺の土地利用の様子を確認する。
- ・②「日本の川」における「地域と川」のページで、地域の川の特徴や、地域に受け継がれてきた川に関する文化を確認する。

地域の川を題材とした表現活動を行う

- ・絵や工作物などで、地域を流れる川を表現する。
- ・作成した作品を、国土交通省が主催する④「河川愛護月間」※1の「絵手紙」や、河川管理者が主催する⑤「写真コンテスト」に応募する。

関連する学習支援コンテンツ（例）



①国土交通省「河川環境教育ポータルサイト」
コンテンツ検索ページでは、「川を題材とした芸術・文化」等のカテゴリや地域などの項目でコンテンツの絞り込みができる



②国土交通省「日本の川」
全国の一級河川を地図から選択することができる歴史や主な災害、自然環境等の概要を確認することができる



③国土地理院「地理院地図」
国土地理院が提供する地図閲覧サービス。航空写真、標高図、災害関連地図など、様々な地図の種類を選択できる



④国土交通省「河川愛護月間」
国民の河川愛護意識を醸成することを目的とした「絵手紙」募集コンクール



⑤京浜河川事務所「川カシャ！」
国民の河川愛護意識を醸成することを目的とした「写真コンクール」



※1 河川愛護月間とは、身近な自然空間である河川への国民の関心の高まりに応えるため、地域住民、市民団体と関係行政機関等による流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを積極的に推進するとともに、国民の河川愛護意識を醸成することを目的とする運動である。期間は毎年7月1日から7月31日まで期間と定められている。この運動の一環として、国土交通省ウェブサイトでは「絵手紙」の募集が行われている。また、各地方整備局のウェブサイトを確認すると、独自の行事を実施している例もあるため、地域の河川管理者が運営するウェブサイトを確認してほしい。